

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
387	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Past and current alcohol consumption patterns and elevations in serum hepatic enzymes among US adults. アメリカ成人における過去・現在の飲酒状況と血清肝酵素値について	
<b>執筆者</b>	
Tsai J, Ford ES, Li C, Zhao G	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Addict Behav. 2012 Jan;37(1):78-84.	
<b>キーワード</b>	
過去飲酒、現在飲酒、肝酵素、疫学、アメリカ	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> アメリカの代表的な成人集団において、過去・現在における飲酒状況と血清肝酵素値の関係を明らかにする。	
<b>方法：</b> 2005-2008年のNational Health and Nutrition Examination Survey(NHANES)対象者の内、20歳以上である8,993名を対象に、年齢を調整して、血清ALT(GPT)、AST(GOP)、GGT( $\gamma$ -GTP)値が高値であるものの割合を求めた。飲酒状況を予測因子、血清ALT、AST、GGT高値を結果因子として、重回帰分析を用いて交絡因子を調整して、肝酵素値が高値であるものの割合を計算した。	
<b>結果：</b> 年齢を調整した上で、血清ALT、AST、GGTが高値であったものの割合はそれぞれ、9.7%、16.0%、8.6%であった。生涯飲まない集団に比べて、男性の現在過剰飲酒者はAST、GGTが高値であるものの割合がそれぞれ50-71%、75-314%高く、女性では過去に日常的に5杯以上飲んでいて現在過剰飲酒者はGGT高値であるものの割合が226%高かった。	
<b>結論：</b> 肝酵素、特にAST、GGTが高値であるものは、現在過剰飲酒者である可能性が高い。飲酒歴のある現在過剰飲酒者は、特に肝障害を来し易い。過剰飲酒者はアルコールによる障害・死亡を生じるリスクが高く、早期に発見することが社会において重要であろう。	